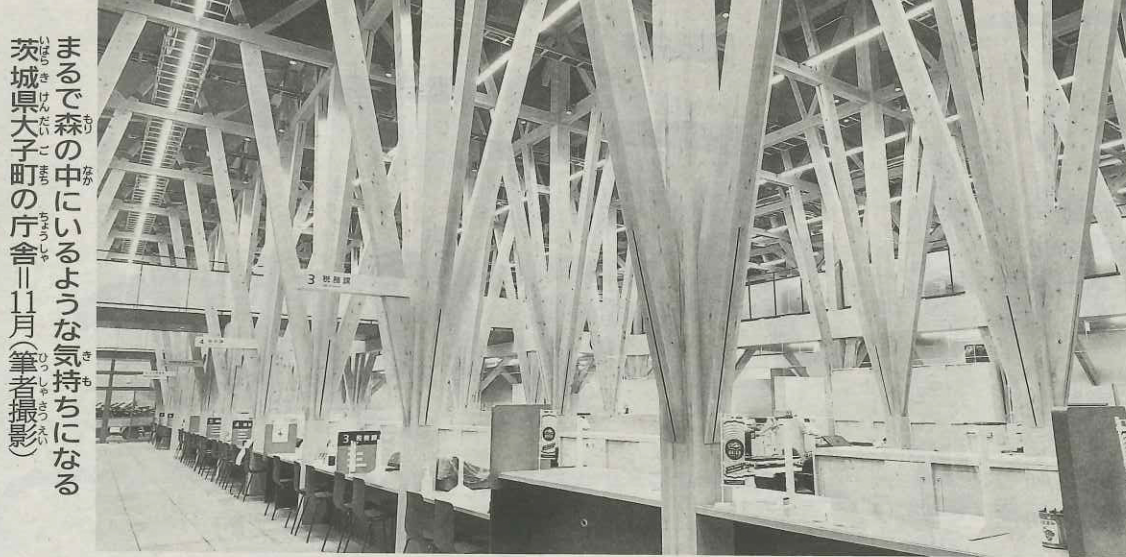


みんなの周りにある建物や生活用品はどんな素材でできているか知っていますか。一戸建てのよ

割が木で造られ、そのうち半分は外国の森の木が使われています。4階建て以上のマンション、お店やビル、倉庫といった住宅でない建物(非住宅)はコンクリートや鉄骨でできていて、ほぼ木造ではありません。家具にも外国の木が使われ、生活用品もプラスチックに代わり、日本の木はあまり使われなくなりました。日本の森には昔の人が将来、私たち



まるで森の中にあるような気持ちになる茨城県大子町の庁舎 11月(筆者撮影)

**建物、生活用品をウッド・チェンジ**

**街を「第2の森林」に**



スギのリグニンという成分を使って開発された、プラスチックに代わる新素材「改質リグニン」。写真のカブトムシは新素材を材料に作られたものです(農林水産省ホームページより)

に使ってほしいと願い、苦勞して植えて育ててくれた木がこんなにあるのに、もったいないですよね。この連載で学んだように、木は育つ間に二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸ってため込みます。「炭素の固定」といい、切った素材になっても木は炭素を固定し続けます。建物や生活用品などの素材をコンクリートや鉄、プラスチックから木に代える「ウッド・チェンジ」を進めたい街が炭素を蓄えて「第2の森林」になるのです。切った後にCO<sub>2</sub>をたくさん吸う若い苗木を植えれば、森の手入れが進み、地球温暖化防止に役立ちます。最近では、燃えにくい加工をした建材や地震に強い工法が開発され、木

**ウッド・チェンジした街のイメージ**

WOOD CHANGE WOOD & CHANGE

くらしに木を取り入れる

建物を木造にする

身の回りのものを木に変える

持続可能な社会へチェンジしよう

ウツドチェンジをみんなが進めていくために林野庁が作ったロゴです

でお店やビル、マンションが建てやすくなってきました。床や壁に木を使うことで、室内の湿度を調節したり、リラック

スできたり、集中力を高めたりするという木の良さも確認されています。建物への「木使い」が再び当たり前になると、日本に森を元気にし

り、地球にも「気遣い」ます。ぜひ、何がウッド・チェンジできそうか、考えてみましょう。(長野麻子、株式会社モリアゲ代表)

**木をふんだんに使った校舎**

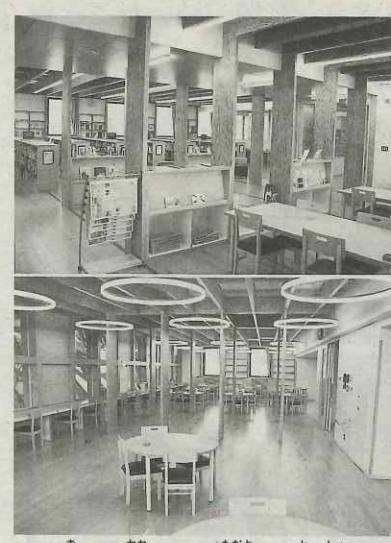
**おおぐろの森中学校(千葉県流山市)**

木の香りや温もりを感じながら、子どもたちが学ぶ学校が千葉県流山市にあります。市立おおぐろの森中学校は木をふんだんに使った教室やおしゃれなラウンジのある図書室、芸術劇場のようなホールを備え、使われる木材の量は約3500立方メートル(25メートルプールで約10杯分)に上ります。



おおぐろの森中学校の校舎 10月、千葉県流山市

コンセプトは「高台の緑に溶け込む 森の中の木の学び舎」。木造の校舎を増やす国の取り組みを利用して、2022年4月に開校しました。使っているのは千葉県のスギをはじめ、流山市上流の利根川水系や長野県、石川県の姉妹都市のカラマツ、ヒノキなどで95%が国産材です。



おおぐろの森中学校の動画 QRコード

通信料がかかる場合があります

木の香りが漂う図書室(上)。隣にはカフェのようなラウンジ(下)があります

使い方も工夫しています。板を縦や横に組み合わせて強度を高めた木材を床や天井に使い、1本の木に見える教室のはりは、板をいくつも重ねて造られました。図書室などの柱は、薄く削った木を張り合わせたLVLと呼ばれる建材です。はりの部分は通常よりも多くの木材を使って太くし、万が一の火事の際に崩れ落ちにくい造りになっています。

木材の産地を分けたり、工

法を変えたりすることで、特定の産地や製材工場に負担が集中しないようにしました。設計した日本設計という会社の執行役員フェロー、小泉治さんはこれを「頑張りな木造建築」と表現します。同時に木の模様などをあえて見せることで、教育現場らしい温かみのある教室づくりを目指したそうです。

学校紹介の動画を作った3年生の内村祐貴さんは「木の温かさを感じられる校舎と、空が見えて開放感がある屋上のプールが好き」と話します。「校則なし」「宿題なし」といった自由で特色のある教育方針の下、540人の生徒が伸び伸びと学んでいます。

